

生活文化産業学

(第 1・3 木曜日 午後 14 時～／成徳学舎)

2012 年度後期 第 8 回 ケーススタディ 7／奈良～京都南部での取り組み

担当：米澤 伸一、大倉 朗寛

～講義の流れ～

1. 株式会社エスアンドエス代表取締役 米澤伸一さんからの報告 (14:00～／60分)
2. 「コモン・センス」と地域活性化の担い手について (15:00～／20分)
3. ディスカッション (15:20～／30分)
4. まとめ (15:50～／10分)

～内容～

1. 株式会社エスアンドエス代表取締役 米澤伸一さんからの報告 (14:00～／60分)
 - ・テーマ 「これからの我が国、そして世界について」
 - ※内容は 2 ページ目以降を参照してください。
2. 「コモン・センス」と地域活性化の担い手について (15:00～／20分)
 - ※内容は 4 ページ目を参照してください。
3. ディスカッション (15:20～／30分)
4. まとめ (15:50～／10分)

「これからの我が国、そして世界について」

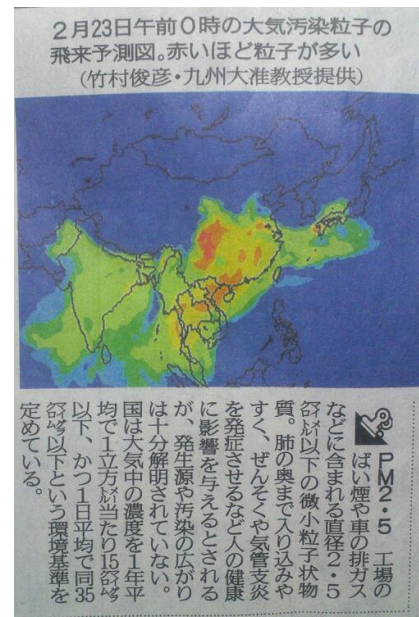
米澤 伸一

1. 「食」について

いま日本の農業は危機に瀕しています。そして、T P P（環太平洋戦略的経済連携協定）に参加するかどうかの議論が、今まさに国会などで展開されているところです。しかし、私は結論が出ていると見ていて、その結論に向かって議論が進められていると見ています。その「結論」とは何でしょうか。その「結論」がしっかり見えていれば、いま日本や世界で起こっている事象がほぼ理解でき、そして予測できるようになります。地震や悪天候、事件、事故など、ある程度は発生する地域と時間帯は予測可能なのです。予測できれば、それに備えることができます。我が国の「食」を守るということは、そういったリスクを予測し、最適な対策によって回避あるいは対処することが重要なのです。

2. 「環境」について

いま中国の大気汚染が問題となっています。2013年2月19日付の京都新聞にも掲載された記事（右記）にもありますように、大気汚染の影響は西日本にも広がっています。これは、西日本に在住する方々の生活への影響も懸念されますし、農業、つまり我が国の「食」について重大な影響をもたらすものと考えています。今後も、大気汚染やウィルスなど、私たちが生活してゆく上で必要不可欠な「環境」が破壊されるというリスクが様々なカタチで現実化するでしょう。だからこそ、私たちは今から、そのリスクを的確に回避あるいは対処するための生活防衛策を講じてゆかなければならないのです。その生活防衛策とは何でしょうか。



3. 「人財」について

いま我が国の教育現場は荒廃しています。関西の各地で、いじめが表面化し、その原因究明と対策について議論がすすめられています。その議論は教育に関係する専門家の方々に任せておいてよいのでしょうか。昨年、「やまと創始塾」という勉強会（交流会）を立ち上げ、「就職率」を向上して雇用を増やし、地域活性化を応援させて頂いております。いま我が国や世界で起こっていることの「現実」、そして、その「現実」として表面化した事象に関する「真実」を正しく理解し、その「真実」に対して的確に行動できるような知識や視点、力量を身に付けて頂き、各地域の活性化に尽力して頂きたいと考えています。

2013年度 やまと創始塾について

やまと創始塾 塾長 米澤 伸一

早速でございますが、私たちが構想して活動している「やまと創始塾」2013年度の活動について、紹介させていただきます。

いま日本で、そして世界で何が起きているのでしょうか？

メディアなどで報じられているニュースは本当にそうなのでしょうか？

少なくとも、私たち情報の受け手側は「真実」を知りにくい環境に置かれているということは確実に言える状況と考えています。私たちはその限られた情報を共有して集約し、その「真実」を見極めながら想定されるリスクを分析して、自分たちの身の安全、日々の暮らしを守るために必要な準備を行ってゆかなければなりません。

まず、私たちの目標は「日々変動する経済情勢や、お金の力を利用した社会の仕組みに翻弄されず、通貨に頼りすぎない相互の信頼で結ばれた安心して暮らせる共同体を創る」ということです。そして、私たちの目指す究極のライフスタイルは、あらゆる生活物資を「自給自足」することです。そのために必要な情報共有と人的ネットワークを形成します。

たとえば、日々の生活に必要な「食」と「住」と「衣」の、それぞれの専門家が知識を出し合い、それぞれが生産したり、取り扱ったりしている生産物を相互に交換して、一人ひとりがより豊かな生活を安心して送れるような仕組みを構築することです。それぞれの専門家が知識を出し合いますので、より「真実」に近い確かな情報が得られますし、それぞれの知識を集約することで、また新たな知識を創造して、より豊かで安心できる暮らしをクリエイティブしてゆくことができると考えています。

そのために必要な視点や技能、考え方などを「やまと創始塾」で学んで体得して頂き、塾生の間だけでなく、広く塾外の方々とも積極的に交流して頂いて経済発展や地域振興、社会貢献に尽力して頂きたいと考えています。

情報共有を目的とした「勉強会」を月に1回開催し、年に2回程度、著名な方を招いて講演会を開催します。それぞれ塾生の方が必要な情報を月1回程度、メールやウェブにて発信（郵送をご希望の方は別途費用が必要）致します。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

やまと創始塾 - 新たな形式の勉強会&交流会=産学民連携による地域の新たな仕組み

<http://yamato19.jp/#yonezawa>

「コモン・センス」と地域活性化の担い手について

大倉 朗寛

地域の活性化を推進しようとするとき、その地域が善くなるように一人ひとりが創造的に自立し、自発的に考えて行動してゆくことは極めて重要である。そして、地域に潜在する労働力としては、地域に在住する高齢者や主婦、大学生の「はたらき」に期待がかかる。

その中で、特に期待されるのが大学生（学生グループ）の「はたらき（＝若さ、行動力）」であるが、意外と地域（特に、地場産業の担い手となっている中小企業）との連携がうまくいかないのが現状である。その理由としては以下のような内容が考えられる。

1. 多くの大学生は自分の持っている知識やアイデアが世の中で通用すると勘違いしている。社会人は大学生以上に日々色々と考えて行動しているので、大学生が大学で学ぶレベルの知識や、その知識から出てくるアイデアでは到底、社会が求めるニーズにマッチするレベルにすら到達しない。
2. 就職の内定が決まった大学生は、すでに就職先の企業戦士（特に大企業の発想や思考）となる。内定の取り消しなどを恐れて言動が保守的になり、地域活性化のために最善を尽くせなくなる。これは誰が悪いという話ではないので、就職の内定が決まれば、大学生（学生グループ）としての活動は引退とするのが望ましい。
3. 多くの大学生はアルバイトに従事しているため、時間的に融通が利かない。ボランティアなど、比較的成本がかからない労働力ということで地域活性化の担い手として期待されるが、やはり生活するためのアルバイトを優先する必要があるため、特にボランティア活動は後回しとなる傾向がある。また、ボランティア活動も自分の興味があることは取り組むが、いま本当に求められているニーズをキャッチして、それを優先できる大学生は非常に少ない。今の大学（で教えている内容）は現代社会に適応できない人財を育成し続けている可能性も考えられる。

以上のことから、やはり地域活性化の担い手としては、各地域に在住する「職人」に期待せざるを得ない。その「職人」とは、現代社会における多様なニーズを的確にキャッチし、それにマッチした商品を生産し、あるいはサービスを提供し、その対価として最適な料金を消費者から頂くことができる、いわゆる「プロフェッショナル」である。そして、「職人技」とは、最適な料金を消費者から頂くことができる商品を生産あるいはサービスを提供できる力量である。したがって、そこに、まだ社会に出てからの知識や経験のない大学生が付け入れるような機会はない。大学生が自分たちでいくら頑張っても、それは子供の「ままごと」であり、それに付き合ってくれるような暇な「職人」はいない。

そういった現実（事実）を直視し、「職人」から謙虚に学び、いま本当に求められているニーズをキャッチして商品を生産あるいはサービスを提供できる力量という「職人技」を身に付けようと努力し始めた大学生であれば、それは地域活性化の担い手として十分に期待できる。ただし、そのタイムリミットは「就職の内定が決まるまで」である。